

1 家庭科における実践課題

(1) 学習指導の工夫

- ① 各題材で身に付けさせたい力を明確にし、適切な実習題材の設定 基礎的・基本的な知識・技能の明確化
- ② 2 学年間を見通し、題材配列・構成を工夫し、繰り返し指導  
     ⇨ 小学校・中学校のつながりを意識し、5 学年間を見通した指導計画の作成
- ③ 実践的・体験的な活動を通して科学的に理解できるようにする。
- ④ ICT を活用した教材等の教材・教具を工夫  
     ・学習内容の理解を図るための拡大、動画等の機能を活用   ・子供同士が教え合い学び合う協働的な学び  
     ・興味・関心を高め、見通しを持たせた主体的な学習       ・子供一人一人の能力や特性に応じた学び
- ⑤ 個に応じた指導や学習形態を工夫 ⇨ T・T、少人数による指導、一人又はペアによる実習等
- ⑥ 家庭、地域との連携 ⇨ 家庭での実践、地域人材の活用

(2) 子供自身が考えたり、工夫したりしながら課題解決に取り組む問題解決的な学習の充実

- ① 生活について見直し、課題を見付けること。
  - ② 情報収集した事柄について比較検討すること。
  - ③ 計画を立てて実践し、振り返ること。
  - ④ 家庭と連携し、実践する喜びを味わわせること。
  - ⑤ 自分の成長を実感できる評価を工夫すること。
- 日常生活で活用する能力を育む

(3) 学び合いを充実させる話し合い活動を取り入れた指導

- ◇ 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける場面
- ◇ 問題解決的な学習において、自分の生活における課題を解決する場面

- ① 話し合う観点を明確にする。
- ② 解決方法について自分の考えを持って話し合う。
- ③ 実験・実習等の結果を整理し、図表やグラフを用いて根拠を明確にして説明する。
- ④ 他のグループの発表を生かして再検討する。
- ⑤ 話し合いを通して学んだことを自分の生活に生かす。

(4) 「思考力」「判断力」「表現力」を育むためのプロセスを位置付けた展開

- ◇ 自分の課題について情報を収集し、他者と話し合い、様々な角度から考え、比較検討して判断すること、発表し合い、課題を共有すること、次の課題を明確にすること。

<b>【評価の観点】</b>  <b>生活を創意工夫する能力</b>	身近な課題を様々な角度から考える	【思考力】
	考えたことを基に課題の解決を図るための	【判断力】
	自らの考えを的確に表す	【表現力】

2 学習指導要領改訂に向けての家庭科、技術・家庭科家庭分野について

(※平成 28 年 6 月 8 日教育課程部会、家庭、技術・家庭ワーキンググループ資料より抜粋)

(1) 家庭科、技術・家庭科家庭分野の見方・考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること。

(2) 育成すべき資質・能力の整理

幼児期に生まれた資質・能力や、小学校低学年・中学年における学習を通じて身に付けた資質・能力の上に積み上げる形で、小学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野、高等学校家庭科を通じて育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等、情意、態度等に関わるもの」の三つの柱に沿う。

① 知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

- ・日常生活に必要な基礎的な理解と技能であり、家族・家庭生活についての理解、生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解・技能、消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解・技能等

② 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

- ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な方法を考え、実践を振り返って評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力

③ 学びに向かう力、人間性、情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

- ・家族の一員として生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。その他、小・中・高等学校をとともに生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようとする態度、日本の生活文化を大切にし、継承・創造しようとする態度等

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

◇ 生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を立案・検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考える。

- ① 生活の課題発見
- ② 解決方法の検討と計画
- ③ 課題解決に向けた実践活動
- ④ 実践活動の評価・改善

児童生徒の状況や題材構成、指導計画等に応じて異なることに留意する必要がある。また、家庭や地域での実践は、①～④に続く一連の学習過程と考えられる。

(4) 家庭科、技術・家庭科家庭分野「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善

「深い学び」：学んだ知識を既存の知識や生活体験等と関連付けて考えることを通して、自分の生活に活用できる新たな知識として価値付けたり、身に付けた技能に科学的な根拠付けをすることを通して、客観的な技術を高めたりして自ら成長していることを確認できる活動

「対話的な学び」:他者とコミュニケーションを深める活動として、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたりするなど、協働的な関係を築く学習活動を積極的に取り入れることが考えられる。(グループ活動やペア学習、討議、ディベート、ロールプレイング等)

「主体的な学び」:学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組む等の学び(学習したことを振り返る活動が重要であり、次の学習に向かう力を刺激すること)

(5) 他教科との連携(カリキュラムマネジメント)、配慮事項

- ・他教科等で行う実践的・体験的な学習と関連を図ることができるのかや指導の時期等について
- ・食育の推進については、小学校低学年・中学年における生活科や体育科、特別活動や道徳、総合的な学習の時間における学習や高学年における他教科の学習を踏まえ、それぞれの特質に応じた連携の在り方について

3 参考となる資料 中央教育審議会教育課程部会 家庭、技術・家庭科ワーキンググループ資料